

# 各務原市議会議員大竹 大輔 かえで通信

平成26年8月  
第4号

発行人  
大竹大輔を育てる会  
会長 伏見 幸久



大竹 大輔

**ご挨拶** 夏空がひときわまぶしく感じられる季節となりました。  
皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

暑い日が続きますが、お変わりございませんでしょうか？水分や塩分をこまめに補給するなど、これからの季節、熱中症には十分ご注意ください。

さて、水とえば、6月に開催された第2回定例会にて、各務原市の水道水源である地下水について一般質問させて頂きました。当市は地下水の状況が良く、良質な水を豊富に有しているとても恵まれた都市です。詳細については、下の議会報告をご一読頂ければ幸いです。

また、水とえば、私は“上善は水の如し”という言葉が浮かんで参ります。これは古代中国の哲学者である老子の言葉で“上善”とは、最も理想的な生き方であり、そういう生き方をしたいと願うならば、水のあり方に学べというものです。水は、あらゆるものに恵みを与えながら、争うことがなく、誰もが嫌う低いところへ自然に流れて、そこにおさまります。身近な水からも多くの学びを頂けます。

昨今、議員の資質が問われる報道が数多くされております。“上善は水の如し”の言葉のように、柔軟、謙虚、奉仕の精神を忘れることなく、議員活動に邁進しなければと強く思う今日のごころです。今後も「幸せを実感できるまち」の現実に向け地域に根差した活動を1つ1つ丁寧にスピード感を持って取り組んで参りますのでご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

**平成26年第2回定例会6月議会報告** 平成26年第2回定例会が6月6日から6月27日までの22日間の会期で開催されました。今回も多くの皆様が傍聴の席にお越し頂き心より感謝申し上げます。

今定例会では、予算の補正、専決処分の承認など19案件の議案が全て可決承認され、次回の定例会では、いよいよ平成25年度の総括となる決算案が上程されます。ご多用とは存じますが、第3回定例会も傍聴の席に足を運んで頂ければ幸いです。大竹大輔の一般質問は次の通りです。↓

## 平成25年度決算見込みと今後の財政運営の見通しについて

平成25年度予算化した事業の執行状況、収支残高及び基金残高、市税収納率など大きく4項目質問致しました。

答弁:「市制施行50周年記念式典事業」をはじめ、「ふるさと納税啓発事業」「わくわく定住奨励金交付事業」など、市制施行50周年記念事業や各務原ブランド推進事業を積極的に展開し、これらを効果的に情報発信した。またこれまで懸案となっていた大規模災害時の活動拠点となる本庁舎や川島市民サービスセンターなどの耐震化に着手するなど、公共施設の100%耐震化の推進に努めた。一般会計においては、歳入決算見込額約467億7,500万円歳出決算見込額約436億6,200万円となり、差引額の形式、収支から翌年度への繰越額を差し引いた実質収支は黒字の見込みとなるほか、国民健康保険事業や介護保険事業など全ての特別会計においても実質収支は黒字となる見込みである。また、財政調整基金や減債基金など一般会計に属する基金の平成25年度末現在高は、平成24年度末と比べ、27億4,000万円程度増加し、約222億円になる見込みである。さらに、市債現在高は、平成24年度末と比べ、1億2,000万円程度減少し、約389億円になる見込みであり、このうち地方交付税に算入されない実質的な市債現在高については、約80億円になる見込みである。引き続き、将来世代に負担を残さない財政運営に努め、健全な財政を堅持に努めるなどの答弁を頂きました。

※ 質問の動画は、市議会のホームページでご覧頂けます！

## 水道水源となる地下水について

地下水の水位や水質の状況、新たな水源地の開発の3点について質問致しました。

答弁:市が設置した7ヶ所の観測用の井戸で毎月1回地下水の水位と水質の状況を測定している。また7月から9月の豊水期、1月から3月の渇水期の年2回、公共施設と民間の井戸を利用して、水位は100ヶ所、水質は97ヶ所で測定をしている。水位の状況は、7月から8月に最高位となり、3月から4月に最低位となっており、経年的には、揚水量の減少により、わずかながら上昇傾向になっている。市の東南部に位置する畑作地帯の硝酸性窒素の状況は国の環境基準値の濃度である10あたり10mgを超えている地域が現在もある。環境基準値を超えた地域にある観測井戸の年間平均濃度は、平成10年度以前は、10あたり20mgを超えていたが、25年度は、10あたり13.4mgまで低下している。また、環境基準値を超える地域も縮小傾向となっている。現在、この地域では、県、農協、農業生産者と市が協力し、原因となる窒素肥料を少なくした減肥栽培に努めており、硝酸性窒素の問題が明らかになった昭和40年代に比べて、約4割の肥料が削減されている。地下水の水量は、約2億7,000万m<sup>3</sup>と推測されており、この水量は市全体の年間揚水量の約9年分相当になる。地下水の水位の状況から推測すると、地下水の水量は安定していると考えられるなどの答弁を頂きました。



## 第2回大竹大輔を育てる会研修会



↑ ひるがの牛乳工場にて



↑ 研修会3日間とも出発時に市長からお見送りのご挨拶を頂きました。ご多用のところ有難うございました！

5月15日・16日・17日の3日間、平成26年第2回大竹大輔を育てる会研修会を開催致しました。テーマ「お隣さんにおじゃまします！第2弾！」を掲げ、近隣の美濃市では、美濃酪農農業協同組合連合会のご協力を受け、ひるがの牛乳など乳製品の製造工場見学と、美濃市三館(美濃和紙の里会館、旧今井家住宅、美濃和紙あかりアート)を見学し、関市では、洞戸観光やなにて解禁になったばかりの鮎の昼食と、17日のみですが、フェザーミュージアムを見学させて頂き、近隣市町村の様々な魅力を参加者の皆様と共に勉強させて頂きました。

### 【ひるがの牛乳の製造工場】

美濃酪農農業協同組合連合会が製造販売している牛乳は、岐阜県内の学校給食用牛乳の50%のシェアを占めているそうです。酪農生産者が丹精込めて搾った生乳を原料に、「安全・安心・新鮮で美味しい」という理念のもと、牛乳・乳製品の製造が行われていました。工場内には直売所もあり、できたての乳製品が購入できます。



### 【うだつの町並み】

美濃市街地には江戸時代中期から明治初期の「うだつ」の上がる家を中心とした古い町並みが保存されており、観光ボランティアの皆さんから旧今井家住宅など、うだつの町並みの歴史、特徴など勉強させて頂きました。

「うだつ」とは、屋根の両端を一段高くし、火災の時の類焼を防ぐ防火壁のことで、後に装飾が施されるの象徴と言われるようになりました。「うだつが上がらない」の語源です。



↑うだつの町並み見学にてユーモアを交えた観光ボランティアのガイドは必聴です！



## 第3回大竹大輔を育てる会研修会



7月8日・9日・16日の3日間、平成26年第3回大竹大輔を育てる会研修会を開催致しました。今回は、各務原市の魅力を再発見することを念頭に置き、川島エリアを中心に広域防災センター、河川環境楽園アクア・トぎふのバックヤードの見学、同じく河川環境楽園内にある自然発見館を研修箇所として、参加者の皆様と共に勉強させて頂きました。各務原市には、魅力がいっぱい！

広域防災センター  
煙体験施設前にて→



### 【岐阜県広域防災センター】

岐阜県広域防災センターは、防災知識の普及向上や防災用資機材の備蓄等を目的として昭和57年に開設され、地震体験や建物内に煙を発生させ避難する体験など、様々な防災訓練が体験ができます。地震体験では、今後発生するとされている南海地震を想定した震度7の地震が体験でき貴重な経験となりました。また、防災備蓄館では、災害時に必要とされる防災用資機材の備蓄を行っており、緊急時に備えた様々な備蓄品を見学することができます。職員皆様の親切丁寧な説明で防災意識が向上する見学となりました。



←アクア・トぎふ  
バックヤードにて

### 【アクア・トぎふ・自然発見館】

アクア・トぎふ(正式名称は岐阜県世界淡水魚園水族館)は、淡水魚専門の水族館としては世界最大級であり、河川環境楽園や周辺の研究施設等を加えると「世界唯一、最大級の河川環境学習ゾーン」を形成しています。今回の研修では、アクア・トぎふのバックヤード(水族館の裏側)を見学させて頂きました。バックヤードには展示水槽以外の多くの水槽があり、水質・水温など各魚に合った環境を細心の注意を払い監視されています。また、餌となる昆虫の養殖など普段みることができない水族館の裏側を勉強させて頂きました。また、自然発見館では、園内にある木曾川水園の魅力をご教授頂きました。木曾川水園も魅力いっぱい！



↑ 木曾川水園散策

